

国際中獣医アカデミー日本校  
小動物鍼灸セミナー 第4回

よくわかる「五臓六腑」



仙台プラム・アニマルクリニック  
梅原孝三(うめはらたかみ)

---

---

---

---

# 臓器と臓腑

- 西洋医学の「内臓」と同じ意味
- 西洋医学と同じ単語が使われるが、同じ機能だけではない
- 西洋医学：**臓器** = 1つの内臓の名前
- 中医学：**臓腑** = その臓腑の機能を重視

# 臓器と臓腑

■ 例えば「胃」

■ 西洋医学：食道の後ろから十二指腸の前の臓器名で、胃内消化をおこなう

中医学：飲食物を受け入れ、消化し、小腸へ送る臓腑で、西洋医学の「胃」と同じ位置にある

# 臓腑の種類

- 五臓・・・肝・心・脾・肺・腎
- 六腑・・・胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦
- 奇恒の腑・・・脳・髓・骨・脈・胆・女子胞

# 臓腑の関係

- 解剖学的な位置関係が近い

例 肝と胆：西洋医学の肝臓と胆嚢

脾と胃：西洋医学の脾臓と胃

# 臓腑の関係

- 同じ系統の生理作用をもつ

例 心と小腸は栄養素の運搬（血液循環）と吸収をおこなう

肺と大腸は酸素と水分を取り込む

腎と膀胱は体内の不要物を排泄

# 五臓の特徴

- 気、血、津液、精を作り、貯蔵する実質器官
  - 五臓が体内の各臓腑のコントロールや精神活動を担う
- ⇒ 西洋医学の中枢神経の役割

# 六腑の特徴

- 物質を貯蔵できない **管腔** 器官
  - 飲食物の消化吸収、水分の吸収や分配、不要物の排泄などがおこなわれる器官
- ⇒ 水穀の精微と糟粕に **分ける**、それらの **通り道**



# 奇恒の腑の特徴

- 形態は腑に似て**管腔**器官
- 機能は臓に似る
  - ⇒ **貯蔵**する
  - ⇒ 各臓腑の**コントロール**や精神活動
- **胆**は管空器官だが、胆汁を貯蔵するので奇行の腑にも属する

# 五臓の生理機能の表現

- 司る、主る(つかさどる) = 五臓が**調節**していること
- 開竅(かいきょう)する = 体表にある、五臓の気**の****出入り**(納出)するところ
- 華(はな) = 五臓の**状態**をあらわす
- 官 = 五臓の地位、**仕事**のたとえ

# 五臓・肝

- 「**疏泄**（そせつ）を司り、**血**を貯蔵する」
- 全身の**気や血の流れ**を調節する（**疏泄作用**）
- 血を貯蔵**する（**蔵血作用**）

## 五臓・肝

- 「筋を司り、目に開竅し、その華は爪にある」
- 腱、筋(すじ)を調節し、筋(きん)肉の動きを操る
- 肝の血の不足は目眩や眼病のもと
- 血不足は爪の病変としてあらわれる

# 五臓・肝

- 疏泄作用とは、全身の気や血の流れを調節すること
- 血を貯蔵する(蔵血作用)

# 五臓・肝

- 「**将軍**の官」「**精神活動**を安定させる」
- 外敵**（病邪）を防ぎ、思考をめぐらす
- ストレスなどで肝気が弱くなると、思惟（しい）活動が鈍り、無気力になったり、**情緒不安定**になる

## 五臓・肝

- **相生関係** 腎の機能が肝を支えていて、腎が弱ると、肝にも影響する
- **相克関係** 肝は脾の働きをコントロールしている

# 五臓・心

- 「心は神を司り、神を蔵す」
- 精神や知能の中枢
- 意識、自律神経、覚醒・睡眠をコントロールする



# 五臓・心

- 「**血脈**を主り、**舌**に開竅し、その華は**面**にある」
- 血脈の働きを操り、血を**循環**させる
- 心の病変は、話し方、味覚など、**舌**、**面(顔)の色や変化**にあらわれる

# 五臓・心

■「心は君主の官」

■精神、意識、思慮に通じる最高の指導者とされる

# 五臓・心

- **相生関係** 肝の機能が心を支えていて、肝が弱ると、心にも影響する
- **相克関係** 心は肺の働きをコントロールしている

# 五臓・脾

- 「**運化**と**昇清**を司る」
- 水穀の**消化と吸収**を行う(**運化作用**)
- 後天の精を取り出す
- 精微物質を**肺に送る**(**昇清作用**)
- 腠臓**も脾に含まれる

# 五臓・脾

- 「脾は**統血**する」
- 血流を滑らかにし、止血因子を生成して、血管からの**漏出を防ぐ**（**統血作用**）
- 脾が弱ると慢性血便、慢性月経過多、子宮出血などが起こる

## 五臓・脾

- 「**筋肉・四肢**を司り、**口**に開竅し、**華**は**唇**にある」
- 精微物質は脾から全身に輸送され、**筋肉**（筋肉）や**四肢**が**滋養**される
- 脾の異常があると、**口唇**は青白くなり、**艶**を失う

## 五臓・脾

- 「脾は倉廩（そうりん）の官」
- 倉廩は飲食物の倉庫で、廩は米蔵
- 脾は、水穀を受納した胃から、精微を運化し、身体に必要な各種の栄養分を供給する

## 五臓・脾

- **相生関係** 心の機能が脾を支えていて、心が弱ると、脾にも影響する
- **相克関係** 脾は腎の働きをコントロールしている



# 五臓・肺

- 「宣発、肃降を司る」
- 宣発とは、宣布、発散のことで上へ、または外へ動かす作用
- 肃降とは静肃、肃清、下降のことで、下へ、または内へ動かす作用

# 五臓・肺

- 「宣発、肃降を司る」
- 呼吸で清気を取り込み（肃降作用）、濁気を排泄（宣発作用）
- 体内の気を清気とともに、全身にめぐるようにする（肃降作用）

## 五臓・肺

- 「**皮毛**を司り、**鼻**に開竅し、**華は息**」
- 脾からの**津液**を隅々の、**皮毛**にまで**行き渡らせ**、不要物を汗、尿として排泄させる(**宣発作用**)
- 鼻**は**呼吸**の出入り口、**皮毛**(体毛と毛穴)は皮膚呼吸の出入り口

# 五臓・肺

- 肺は「相傳（そうふ）の官」
- 相傳とは、君主（心）を補佐することで、宰相の役を指す
- 肺は気血津液を調整する役割をもつ

## 五臓・肺

- **相生関係** 脾の機能が肺を支えていて、脾が弱ると、肺にも影響する
- **相克関係** 肺は肝の働きをコントロールしている

## 五臓・腎

- 「水液を司り、精を貯蔵する」
- 水分代謝を調節、排泄する
- 精を蔵し、元気をもたらす（蔵精作用）
- 精は生命、成長、生殖の根源
- 腎が弱ると精が不足し、老化がすすむ

## 五臓・腎

- 「**納気**を司り、**耳**に開竅し、華は**髪**にある」
- 肺からの清気を腎に導く(**納気作用**)
- 精が不足すると**耳**が遠くなったり、**白髪**が出る
- 髪(毛)は血の余り・・・エリスロポエチン

# 五臓・腎

- 「骨を司る」「作強の官」
- 腎は精を蔵し、精は髓を生じ、髓が骨を養う・・・VitDの活性化
- 作強とは、動作が軽く、力強いことで、腎気が旺盛になれば、精神は充ちあふれ、筋骨が強くなり、動作が敏捷となる



## 五臓・腎

- **相生関係** 肺の機能が腎を支えていて、肺が弱ると、腎にも影響する
- **相克関係** 腎は心の働きをコントロールしている

# 六腑・胆

- 胆汁を貯蔵、排出する
- 脾胃の消化を助ける
- 決断や勇気に関与
- 症状：胆汁の分泌減少  
⇒ 消化がうまくいかず

# 六腑・小腸

- 胃から送られてきた水穀の精微を受け取る（**受盛**）
- 必要物（清）と不要物（濁）に分ける（**泌別**）
- 清は脾に送られ、濁の水分は膀胱に、固形物は大腸に送られる（**降濁**）

# 六腑・胃

- はじめに飲食物を受け入れる(受納)
- 飲食物の消化により水穀の精微に変化させる(腐熟)
- 水穀の精微は脾と小腸へ送られる(降濁)

# 六腑・大腸

- 小腸から送られてきた不要物から水分を**吸収**する
- 肛門から便を**排泄**する

# 六腑・膀胱

- 肺、脾、腎、三焦の働きで全身を巡った水分が集められ、**排泄**される

# 六腑・三焦

- 「気機の昇降出入を司る」
- 気、血、津液を全身に配布する、またはその通路
- 水穀の通路で、水穀の代謝を円滑にする
- 体温調節をする

# 奇恒の腑・脳

- 頭蓋の中にあるおおきな髄
- 精神活動の思惟を司る
- 身体の運動を円滑にする



# 奇恒の腑・髓

- 骨の中にあり、骨格を滋養する
- 腎精が変化したものとされ、髓が不足すると成長が遅れ、骨が弱くなり、身体がだるくなる

# 奇恒の腑・骨

- 頭蓋体表の奥にあり、中に髄がある
- 連結して骨格を形成し、身体を支える
- 骨の外側には、筋肉、脈、筋がつく

# 奇恒の腑・脈

- 中に営気と血を通し、漏れ出さないように覆い、気血を全身に行き渡らせる
- 脈は心が司るので心の影響で脈拍が変わる

# 奇恒の腑・女子胞

- 子宮と同じ

# 奇恒の腑・胆

- 胆汁を貯蔵、必要に応じて小腸に分泌する

⇒ 腑の性質に合わない



よくわかる  
「五臓六腑」

ご清聴

ありがとうございました  
た